

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0870102142		
法人名	株式会社 いっしん		
事業所名	グループホーム いっしん館 水戸		
所在地	茨城県水戸市大塚町1612-14		
自己評価作成日	平成23年10月1日	評価結果市町村受理日	平成24年2月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://ibaraki-kouhyou.as.wakwak.ne.jp/kouhyou/infomationPublic.do?JCD=0870102142&SCD=320>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人認知症ケア研究所		
所在地	茨城県水戸市酒門町字千束4637-2		
訪問調査日	平成23年11月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

明るく元気に、楽しい館環境を整えられるよう、スタッフ一人ひとりが取り組んでいます。また、会社全体での取り組みにて、毎年エリアごとに一泊二日の温泉旅行を実施しています。普段見られない表情や行動もみられ、貴重な時間を共に過ごす事が出来ています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人全体での社員教育への取り組みは優れていて、職員も向上心を持って日々のケアに携わっている。さりげない会話の中に利用者の個性を大切にしている様子がうかがわれた。毎年行われている一泊二日の旅行は、ご本人、家族共に楽しみにしている行事である。用意周到な職員の働きで毎年実行可能にしていると思われる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域との交流を大切にしている。グループホームのあり方を共に考え、共有していきけるように、理念を掲示し実践につなげている。	法人としての理念はあるが、地域の特性をふまえて独自の理念の必要性を感じている。5月からエリアマネージャーが交代となり、職員と一緒に考えていきたいと思っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	社会福祉協議会や近隣ボランティア等を通じ、地元の方々との交流を深めている。	ボランティア団体は協力的で、利用者は一緒に歌えることを楽しみにしている。保育園と直接交流はないが、ホームの窓から見える子供の様子がみんなを和ませている。夏まつりなどホームのイベントは同一法人の3施設合同で、当ホーム以外の場所で行うため近隣の住民の参加は難しい。他にヘルパー2級の実習受け入れをしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設内にパンフレットを常備し、見学や相談を受け入れている。また、2ヶ月に1回地域運営推進会議を開催し、地域住民の方へ働きかける機会を設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者様へのサービスの現状や取り組みの報告、意見の交換等を行い、サービスの向上に活かしている。	2ヶ月に1回定期的に行われ、同一法人内グループホームの代表も参加している。行政担当者やボランティアの参加があるが、地域住民の参加が少なく、家族も毎回参加は難しい状況にある。	地域とグループホームをつなぐパイプ役としての機能を発揮するために、幅広く地域住民が参加できるような働きかけを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当者への説明やパンフレットを渡している。保護担当者とは密に連絡を取り合い、相談には応じて頂いている。また、ボランティアを招きサービスの質の向上にも努めている。	県の相談員が定期的に訪問するほか、福祉担当者が毎月訪れる。行政からの入居依頼があったり、相談したり良好な関係が構築されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営者及び全ての職員(介護保険法指定基準における禁止の対象における具体的な行為)を理解しており、身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。	拘束しないケアは当然のこととして行っているが、転落防止策として、家族と相談し条件付きで4点柵を使用した例が一例ある。身体拘束だけではなく、言葉による拘束にも配慮した取り組みを行い、新人職員には特に注意を払っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や情報番組等での情報の理解を深め、虐待が見過ごされる事のないよう、常に注意・防止に努めている。申し送りやケース記録を活用し、小さな事も見逃さないようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	スタッフミーティング等の際に学ぶ機会を持ち、理解を深めている。現在、対象者はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約、改定時には十分に説明を行い、ご家族様に納得して頂いた上で同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情は常時受け付け、要望があった際には即実行している。また、苦情があった際には十分に説明を行い、納得して頂けるようにし、次に繋げていける環境づくりをしている。	家族は気付いた時に直接言ってくれる。最近では、栄養面での意見があり、介護スタッフで栄養士の有資格者を配属させ改善に向けた例がある。要望に対しては前向きな対応を行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回スタッフミーティングを開催し、意見や提案を聞く機会を設けている。利用者様の受け入れや継続の可否等においてもスタッフの意見を取り入れながら取り組んでいる。	2ヶ月に1回社長も参加、直接意見を聞いてもらう機会になっている。また、毎月のサービス担当者会議も兼ねている。議事録も細かに記録されていて、副主任以上のコメントが記載され全職員に周知されるなど職員教育の役割も果たしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	明るく元気に、楽しい館づくりをモットーに仕事を行っている。スタッフ一人ひとりがやりがいや、向上心を持てるよう、研修会参加や、他館スタッフミーティングに参加している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	3ヶ月に1回講師を招き、社内研修会を行っている。全スタッフが内容を理解し、外部の研修会にも積極的に参加出来るよう、進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流を介し、意見交換等を通じサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	気軽に相談出来る環境づくりを心掛け、1対1にて相談が出来るように配慮している。話した内容はケース記録等に記載し、情報の共有を図っている。また、アセスメント方式により利用者様の現状や希望を把握しやすい仕組みを作っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	各ユニットの出入り口にご意見箱を設置し、気軽に意見を出して頂けるようにしている。契約時、ご家族様と十分に話した上で意見を頂き、ケアプランを作成している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームに適しているかを見極め、他のサービスが適している場合は相談し、助言等支援していきます。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様は人生の先輩として意識し、敬意を持って接している。衣食を共にし、利用者様の得意分野を探りそれを居場所へと繋げていけるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事や一泊旅行への参加を支援していく。何かあればご家族へ相談・連絡・報告をしている。毎月、写真付きのお便りを出している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きたい所へお連れしたり、馴染みの人に会いに行ったりと、出来るだけ利用者様の希望にそえるようにしている。	入居して間もない方で、家に帰りたいという場合が多く、家族に対応してもらう事がある。ご本人の希望で外食など家族と一緒に楽しんで来る他、墓参りに行く方もいる。入居者の家族は協力的で、職員はご本人の希望を伝える事のほうが多い。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士が挨拶等をされながら、お互いの事を気遣い、助け合いながら生活している。スタッフは上手くコミュニケーションが取れるよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	グループホーム・介護付き有料老人ホーム・適合高齢者専用賃貸住宅の三本柱となっているので、都合により契約が終了しても相談に応じ、状況に合わせ支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの話しを傾聴、本人の希望を見出し把握に努めている。意思表示が困難な方に関しては、表情の一つ一つを見落とさないようにし、	物品購入の希望が必要以上に多いと思われる時には、家族に確認をとりながら対応している。タバコに関する要望には、家族とも相談して一定のルールを作って喫煙できるようにしている。日常の会話の中から把握できるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に事前面接を行い、その方の生活歴やこれまでのサービスの利用状況を把握し、全スタッフがより良い環境に出来るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録、申し送りノートを随時活用している。一人ひとりに合った生活をして頂いている。急な状況の変化等があった際は、必要に応じて緊急ミーティングを開いている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、御家族の意見を取り入れ、より良い生活が出来るようにしている。必要時、医師、看護師に相談。月1回のモニタリング、アセスメントを全スタッフでカンファレンスし、介護計画作成、見直し、検討している。	ケースカンファレンスで話し合いながら、全職員の意見を聞き、ケアマネが作成する。ひとりの利用者に対しての課題が多すぎて、ケアに反映されにくい感じもあり、今後は他のホームと情報交換をしながら考えていきたいと思っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	昼夜の様子を常にケース記録へ記入。申し送りノートも活用している。朝礼、夕礼を行い、状況を報告している。スタッフミーティング時には話し合った内容をファイルにまとめ、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	当社は、グループホーム、有料老人ホーム、高齢者専用賃貸住宅の三本柱で行い、ご本人様、御家族様の希望に応じた対応を行なっている。また、連携病院に相談し、連携をとっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア、警察、消防、文化、教育機関の協力を得て、連携を図り、利用者様の生活を支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	必ず、本人様、御家族様の希望を確認した上で受診している。必要な時は他医療機関の紹介を受けている。	かかりつけ医への受診は家族対応が原則となっていて、受診結果については家族から報告を受ける。入居者の健康管理は往診で対応し記録に残すが、結果については面会時やお便りを送るときに知らせる。急変時はいつでも緊急対応が可能な体制が出来ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	昼夜問わず、連絡できる状況になっており、常に適切な対応が出来るようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的に面会に行き、担当医師、看護師より状況説明を受け、早期退院に向け、医療機関と連携している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人様、御家族様には重度化、終末期の時の意向を伺っており、話し合いによっては転居されるケースもある。スタッフも周知し、医師と話し合っている。終末期マニュアルがある。	家族の希望があれば看取りケアは可能であり、内科医師の24時間対応や病院との連携は出来ている。職員への「終末期」としての特別な研修は行っていないが、外部研修へ参加する機会はある。職員は医師を中心として家族との十分な話し合いをすることで終末期ケアは可能になると思っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	スタッフは、救命救急講習を定期的受講している。応急処置のマニュアルや薬箱等を常備し、応急手当が出来るようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防の協力を得て、年2回実施している。日中、夜間を想定した訓練を実施し、非常食も保管している。	3月の震災では、同一法人の他のホームへ避難した。食糧など物資は本社から届き不自由しなかったが、水がなくて大変な経験をした。建物や人的被害はなく同一法人内で乗り切った。火災のみならず、自然災害についても考えるチャンスとなった。	3・11の経験を振り返り検証することで、今後の防災対策に活かして頂きたい。また、地域防災について地域や行政を巻き込んで検討することで、より地域に密着出来ることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として敬い、かつ一人一人に合った対応、声掛けを行なっている。	写真の掲載などについては同意をもらっている。言葉かけに関しても、羞恥心を感じさせる場面では特に注意を払っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個人個人の話を傾聴し、信頼関係を築くと共に、個人の意見を尊重し、決定権を利用者様本人にと努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事、入浴、トイレの時間を決めず、その人に合わせたペースを大切にし、希望に添い、対応している。また、季節の行事、個別のレクリエーション等取り入れ、希望に添っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしさを表現出来るよう日常衣類を本人の意向で選んでいる。衣類購入の際は一緒に買物に行き好みのものを選んで頂いている。また、弊社移動理容室によりパーマ、毛染め等のお洒落が出来る様支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感のある献立を作成し、利用者様の好みの献立を取り入れ、食事の準備や後片付けを一緒に行なっている。また、食事も楽しめるよう、外食等も取り入れている。	食事は職員と共に食卓を囲み、楽しく食べている。季節の料理も取り入れる工夫がなされ、訪問時は菊のてんぷらが食卓にあった。他には、栗ご飯なども楽しむこともある。出来る人は、片付けを手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人個人に合った食べる量、水分量に合わせて提供し、1日の食事量や水分量等チェック表に記入し、いつでも確認できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、利用者様に合った口腔ケア、方法を行なって頂き、必要に応じて介助を行い、清潔保持に努めている。また、義歯や口腔内に異常があった際は、月2回歯科往診の際相談、診察を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、その人に合ったトイレ誘導、排泄介助が出来るよう支援している。	トイレでの排泄を基本としている。様子をみながらサインをキャッチして声掛け誘導している。(例えば、椅子から立ち上がる、そわそわするなど)比較的軽度から中等度の方が多いので、見守り程度で自立出来ている。夜間のみ介助の方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食事を作り、毎日乳製品を提供している。適度な運動、腹部マッサージ等を行い、便秘予防に努めている。また、状態に応じ医師に相談し、下剤による排便コントロールを行なっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人様の希望を重視し、好きな時間に入浴出来るようにし、その人に合った温度にし、快適に入浴して頂いている。	希望があれば朝から入浴できる体制が出来ているが今の所、朝・夜の希望者はいない。入りたい時自由に入れる。「風呂に入ると肺炎になる」という本人の思い込みから入浴拒否される方がいるが、本人、家族と相談の上週に1回は入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の温度管理、寝具干しで清潔を保ち安眠できる環境を整えている。ソファ、椅子等で休息出来るよう整備している。適度な運動を取り入れ夜眠れるようにしている。状況によって医師の指示のもと睡眠導入剤を使用する事もある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全スタッフが薬の内容について理解し、指示通り服薬介助が出来るようにしている。また、薬の変更があった際、十分に申し送りをし、全スタッフが把握している。また、経過観察を行い、医師に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみ、食器拭き等利用者様がそれぞれ得意な事、出来る事を把握し、張り合いのある生活が出来るよう支援している。レクリエーションや季節の行事等楽しみを多く作っている。嗜好品については身体状況を加味しながら楽しんで頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様の希望に合わせ、散歩や買物へ外出している。また、本人の希望に合わせ、御家族様との外出の連絡を行なう。	家族が頻回に訪ねてくれるので、家族との外出が多い。会話の中から食べたいものなど聞き出し、献立に組み入れ、スーパーへの買い物も一緒に行くことがある。外食は月に1回くほか、いっしんグループの墓へ毎月順番に墓掃除に行く。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人一人の希望や力量に応じ、御家族様と相談の上、自分で金銭の所持をされる時もある。また、一緒に買物に行った際、一緒にお金を渡し、お釣りを受け取るよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は利用したい時にすぐ使用できるようホールに置き、手紙も本人に渡し、やり取りのし易いようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールに季節の花を飾ったり、装飾する事で季節感を出している。レースカーテン等で日差しの調節を行い、常に換気にも気を付けている。共用の空間は常に清潔に心掛けている。	各ユニット毎に飾り付けが工夫されている。調査時は季節がら、手作りのクリスマスリースが沢山飾ってあった。風呂の場所に入浴シーンのアップリケの暖簾があり、わかりやすくなっている。壁には思い出の写真もあり、一泊旅行の楽しそうな様子が見えた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファを置いたり、和室に座卓や座椅子を置き、思い思いにくつろいで過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具、生活用品、装飾品を持ち込んでもらい、本人にとって居心地の良い空間作りをしている。	個人の趣味で、居室の入り口に熱帯魚の水槽を置き、他の入居者と一緒に楽しめるようにしている方がいた。居室にはギターを置いたり、使い慣れた机や引き出しなどもあり、若い時の写真が飾られてた。居室の名札はそれぞれの好みで工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーになっており全体に手すりが付いている。滑りやすい階段には滑り止めを付け清潔感に心掛けアクシデントの原因となるものは置かない。居室の入口には一目で分かるように写真や名前を付け浴室やトイレも分かり易く表示している。		

目標達成計画

作成日：平成 24 年 2 月 12 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議に地域住民の参加がない状況にある。	地域との交流を深め区長、民生委員、地域の方々に参加していただける働きかけをしていく。	館の行事(避難訓練、季節ごとの行事)に参加していただき、いつでも気兼ねなく来館できる環境づくりを行う。	6ヶ月
2	35	災害時の地域から協力が得られるか。	地域の行事に参加していただき私達に出来るお手伝いをし交流を深めていく。	避難訓練時、地元消防団にも参加していただく。3・11水不足だったため井戸があるお宅から協力が得られるようにする。	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。